

学府アンケートの分析結果（産業マネジメント専攻）

（1）授業評価アンケート

① 基礎データ

【授業の知的価値について】

本専攻が提供する授業の知的価値について高い満足度（5及び4評価の合計）を示した学生はそれぞれの項目で75%以上であり、「知的好奇心をかき立てるものであった（82%）」「期待した知識が授業で得られた（77%）」「ビジネスの実践に役立つと思われる知識が得られた（75%）」となった。

【担当教員について】

本専攻の担当教員について高い満足度（5及び4評価の合計）を示した学生は、それぞれの項目で70%台後半から90%台であり、「熱意（89%）」「学習の目標の明示（84%）」「説明の明快性（77%）」「質問への的確な回答（78%）」「教員知識（95%）」となった。

【講義技術について】

本専攻の担当教員の講義技術について高い満足度（5及び4評価の合計）を示した学生は、それぞれの項目で70%台後半から80%台であり、「授業準備の周到さ（88%）」「教科書、参考書、配布資料などの有用性（81%）」「板書、OHP、スライド、ビデオなどの使い方（77%）」について高い満足度を示していることがわかる。また、「学生が授業中にディスカッションに参加することを奨励されたかどうか」については67%がYes（5及び4評価の合計）と答えており、ビジネス・スクールらしい双方向型授業が行われていることを示している。さらに、78%の学生が「授業は全体としてよくまとまっていた」として、総合的に高い満足度を示している。

【全体的評価・満足度】

各科目に関する総合的満足度について高い満足度を示した学生は14科目中10科目で80%台であり、「全体としてこの授業は極めて有益であった（82%）」「私はこの科目を他の学生にも勧めたい（75%）」など、総合的満足度が高いレベルにあることがわかる。また、学生の学習意欲については、「この授業に意欲的に取組んだ」とするもの（5及び4評価の合計）が80%に達している。

【科目の特徴】

科目の難しさについては「ちょうど良い（3ランク）」と「難しい（4ランク）」程度が適当と考えられるが、全体として3～4ランクを挙げた学生の合計は88%であり、全体として適切な水準であると考えられる。但し、科目の一部に「難しい」ないし「非常に困難」と答えた学生が80%以上の授業が存在するが、学生を鍛えるためのものであり、特に問題とはならないであろう。

勉学の負荷については「ちょうどよい（3ランク）」と「やや重い（4ランク）」程度が適当と考えられるが、全体として3～4ランクを挙げた学生の合計は88%であり、適切な水準と考えられる。

授業のペースについては、「ちょうど良い（3ランク）」が妥当なレベルであり、66%であるが、「やや早い」は22%で、適度な緊張感が保たれているものと考えられる。

教員の親近性については、「とても親近感がもてる（5ランク）」及び「親近感がもてる（4ランク）」合計で68%であり、大半の教員が適切な教育上の距離を維持しているものと考えられる。

【授業内容の重複】

本専攻の授業は数多く開講されているため、科目内容の重複を調査しているが、問題は見られない。隣接科目における内容の重複はあるものの、異なる角度や異なるレベルでの教育であるため、学生の反応も「理解が深まる」「復習が出来た」「相互補完できた」と肯定的である。

【自由記述欄】

自由記述について、一般論としてコメントすることは大変難しい。特に表面的な評価はかえって状況をmisleadする可能性すらあると考えられる。アンケートは無記名であるため「当人の学識レベル」「心理状態」「期待の程度・内容」などが掴めないことに加え、各学生が極めで短い言葉で記述しているため、そこでのニュアンスなどを掴み取ることが困難であるからである。例えば「要改善」の項目において、「ディスカッションの時間が少ない」という記述に関する背景については、(a) ディスカッションを行うべき授業なのにディスカッションに割く時間が少ないと、(b) ディスカッションの時間を最大限とっているが、面白い授業なのでもっとディスカッションをしたい、(c) ディスカッションが盛り上がり上がらないうちに終ってしまうなど様々なケースが考えられる。これらのニュアンスは、究極的に各科目の教員が自由記述を読んで判断すべきと考えられ、第三者が一般的評論を加えることには限界があると思われる。自由記述そのものの価値は認められるものの、これは当該科目の特徴、教員のくせ、授業内容などを熟知した者でなければ学生の真意を充分に汲み取ることは困難である。誤解を生じさせることがない記述もあり、以下ではこの点のみコメントを行う。

本専攻の教育として学生が良いと感じている点で最も多い意見は「実践的である」「教員の実務経験に基づくこと」「多様なものの見方ができるようになった」「具体例等が豊富で興味深い」などである。これらは、他にも多くの学生があげる「ケースが有益」「専門性が高い」などの点とともに、本専攻の実践的教育が高く評価されたものと考えられる。また、「充実した価値ある講義」「積極的に生徒と関わろうという姿勢があった」などを挙げた学生も多い。一方、学生が不満に感じる点としては、「講義のペース配分や時間管理」「レジュメの配布が少ない」「分析手法の活用方法をもう少し学びたい」「学生の発表時間を管理して欲しい」などテクニカルな要望が若干提示されており、該当する教員等は改善努力が必要と思われる。

② 集計結果の概観

【評価の総合的結果】

データ上も自由記述コメント上も、本専攻の前期授業は総合的に高い満足度を得ている。学生は、それぞれの授業について肯定的・否定的両面から様々なコメントを寄せているので、教員は各コメントを読み、授業改善に活かしていくことが重要である。

【組織的に緊急に改善が必要な点】

本アンケート結果をみて、本専攻として、教育上組織的に緊急に改善が必要な点は特に見られない。